



リチウムイオン電池向け包材「SPALF®」、車載大型製品向け量産設備導入を決定

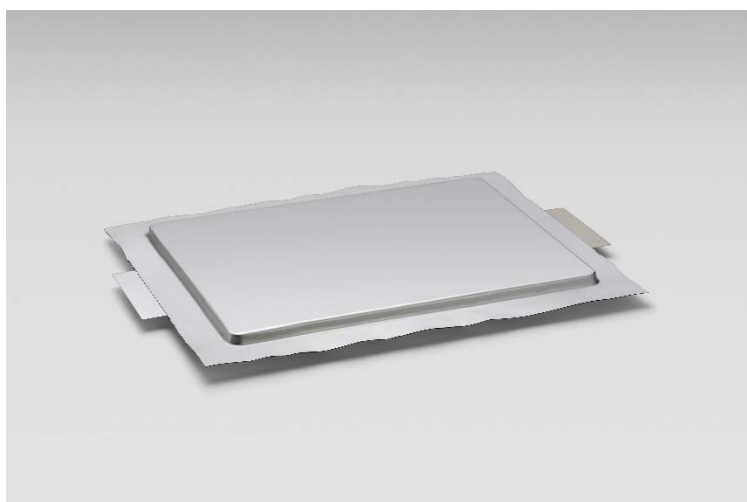
昭和電工株式会社（社長：森川 宏平）の子会社である昭和電工パッケージング株式会社（社長：辻 勝行）は、リチウムイオン電池（以下、LIB）の包材であるアルミラミネートフィルム「SPALF®」について、車載向けなど大型用途向けに特化した新製品を開発し、量産化設備を導入することを決定しました。新設備は2021年3月に稼働開始する予定です。

SPALF®は樹脂とアルミ箔をラミネートしたフィルムで、パウチ型 LIB の包材として使用されます。高い絶縁性を持ち、成形性が優れることなどから、世界的に高いシェアを有しています。パウチ型 LIB は形状の自由度が高く軽量であることから、スマートフォンやタブレットなどの小型用途で広く採用されていますが、近年、品質の高さが認められ安全性の評価が進んでいることから、電気自動車（EV）向けをはじめとする大型用途でも採用が拡大しています。中国に続き欧州でも EV 開発が進み、パウチ型 LIB 包材の需要が高まっていることから、大型用途向け新製品を開発し、その量産設備の導入を決定しました。

昭和電工グループは個性派企業（収益性と安定性を高レベルで維持できる個性派事業の連合体）の実現を Vision（目指す姿）としています。LIB の世界需要（容量ベース）は2025年まで年率30%の成長が予想されています*。当社は SPALF®をはじめ、正負極材添加剤 VGCF®、水系バインダー樹脂 ポリゾール®といった特徴のある LIB 部材を取り揃えています。これらの製品を拡販することで、LIB 市場の成長や高機能化に貢献するとともに、先端電池材料分野での個性派事業の確立を目指します。

以上

*...当社推定



◆ 本件に関するお問合せ先：昭和電工（株）広報室 03-5470-3235